

要 望 書

【令和 7 年度第 1 回定例会】

千葉県町村議会議長会

目 次

第 1 健康福祉行政の充実強化について

- 1 子ども医療費助成等の拡充について 1
- 2 地域医療体制の確立について 1

第 2 県土整備行政の充実強化について

【道 路】

- 1 県道南総一宮線（一宮バイパス）の道路改良事業について .. 2
- 2 県道茂原・白子バイパスの建設促進について 2
- 3 県道日吉誉田停車場線の道路整備について 3
- 4 県道南総一宮線（南郷トンネル）の道路整備について 3

【河川・海岸】

- 5 九十九里沿岸の海岸津波対策事業に伴うコンクリート
被覆の早期完了について 4
- 6 二級河川夷隅川の河川整備について 4

第 3 教育行政の充実強化について

- 1 部活動地域移行における地域格差の解消について 5

第 1 健康福祉行政の充実強化について

1 子ども医療費助成等の拡充について

子ども医療費助成制度について、県は入院の助成対象を中学 3 年生まで、通院・調剤の助成対象を小学 3 年生までとしている。

しかし、現状は、自治体が独自に上乗せ助成を実施しており、自治体間で助成内容に格差が生じている。

この格差を解消することは、少子化対策として未来を担う子どもを安心して生み育てられる環境づくりとして重要な施策である。

については、通院・調剤・入院の助成対象を高校 3 年生相当まで拡充することを要望する。

2 地域医療体制の確立について

二次保健医療圏には、医師の確保が進まず医師少数区域であり基準病床数を満たしていない圏域がある。

また、救命救急センター、周産期母子医療センター、母体搬送ネットワーク連携病院及び分娩できる施設の設置状況についても地域差が生じている。

さらに、圏域ごとに確保すべき医師の数の目標を定めているが、圏域内では医師の定着が図れていない状況が続いていることも課題である。

については、今後、医療を必要とする患者が増えていく見込みの中、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、医療提供体制の構築及び医療従事者の確保等の取組の促進を要望する。

第２ 県土整備行政の充実強化について

【道 路】

１ 県道南総一宮線（一宮バイパス）の道路改良事業について

県道１４８号南総一宮線は、市原市と一宮町を結ぶ主要道路であるが国道１２８号との接続部分は一方通行となっており不便をきたしている。

国道４０９号茂原一宮道路（長生グリーンライン）と国道１２８号を結ぶ予定である、県道南総一宮線（一宮バイパス）の道路改良事業は、地域防災の観点からも非常に重要であり、早期の完成を要望する。

２ 県道茂原・白子バイパスの建設促進について

主要地方道茂原白子線は、茂原市本納地区から白子町の海岸部までを結ぶ東西道路軸であり、国道や鉄道のない白子町では重要な道路である。

しかし、事業化され３０年が経過しているが、海岸部からの優先整備区間２．１kmの工事の進捗率は極めて低いこと、また令和５年度において白子町内の残りの２．９kmの線形が示されたものの、茂原市区間４．９kmは未だ着手がなされていない状況である。

については、県道茂原白子バイパス実施計画を早期に作成のうえ、県都一時間構想の一翼を担う長生郡市の東西の骨格軸として、首都圏中央連絡自動車道茂原北ＩＣと九十九里有料道路へのアクセスの向上、また、災害時の避難道路としての重要性を鑑み、県道茂原白子バイパスの早期完成を要望する。

3 県道日吉菅田停車場線の道路整備について

日吉菅田停車場線は、3本の主要地方道（五井本納線・千葉茂原線・市原茂原線）を結ぶ主要な路線であり、近年特に観光目的の車両や物流関連の大型車両の交通量が著しく増加している。

しかし、未だに一車線の狭隘区間においては、すれ違いに苦慮する箇所もいくつかあり、特に地域の学童は極めて危険な状態での通学を強いられている状況である。

加えて、新たな首都圏中央自動車道スマートインターチェンジ（以下S I Cという）が令和2年2月に供用開始し、近接する本路線の重要度は益々増加する一方、脆弱な路線への不安も一層増している。

については、本路線と茂原長柄S I Cが一体的な機能を果たすため、全線の改築事業化を要望する。

4 県道南総一宮線（南郷トンネル）の道路整備について

長南町水沼地先の県道南総一宮線は、幅員が狭く待避所による交互通行や見通しの悪いカーブがあり、交通弱者である歩行者等が危険にさらされている状況にある。

特に、明治45年に建設された市原市との境にある「南郷トンネル」は、乗用車同士の交互通行が不可能であり、観光バスなど大型車両の通行にも支障をきたしている。

本路線は、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の市原鶴舞I Cにアクセスする主要道路として、観光及び圏央道の整備効果を波及させるなどの重要な役割を担っている。

については、南郷トンネルをはじめとする道路整備事業の促進を要望する。

【河川・海岸】

5 九十九里沿岸の海岸津波対策事業に伴うコンクリート被覆の早期完了について

九十九里沿岸は東日本大震災での津波による被災を受け、人命・財産を守るため、防護施設の高さを確保することを最優先として、海岸津波対策事業による九十九里有料道路のかさ上げを含む築堤が完了したところである。

しかし、津波に対する堤防は「海岸堤防等の粘り強い構造及び耐震対策に適した構造とする」とされているが、津波対策事業では、土堤による整備が行われており、集中豪雨や台風等の際に表面が崩れたこともあったため、海岸線付近に居住している住民は不安を感じている。

ついては、県において進められているコンクリート被覆整備の早期完了を要望する。

6 二級河川夷隅川の河川整備について

近年は、地球温暖化等による異常気象により、大型台風や集中豪雨が原因で河川の氾濫による浸水被害や土砂災害が国内で毎年発生しており、各地で甚大なる被害をもたらしている。

夷隅川は、勝浦市にその源を発し、数多くの河川をあわせ大多喜町の市街地を經由していすみ市において太平洋に注いでいる二級河川で、昭和45年及び同46年と続けて大雨による浸水被害が発生し、特に昭和45年の集中豪雨では甚大な被害が発生している。

ついては、地域住民の安心・安全を確保し、活力あるまちづくりのため、夷隅川の河川整備計画を早期に策定し、事業化を図るよう要望する。

第3 教育行政の充実強化について

1 部活動地域移行における地域格差の解消について

休日の部活動地域移行を推進するにあたり、人口減少が進んでいる市町村でも対象生徒が自ら希望する活動を多くの選択肢から自由に選択できるよう、近隣市町村を含めて広域的に選択できるシステムやルール、財源の支援等のあり方について、実証事業の十分な検証結果を踏まえ、居住地による格差を解消し、県内全ての対象生徒に活動機会を保障するよう、自治体等への財政支援の制度の創設を要望する。